

新年のご挨拶



(独立行政法人日本学生支援機構理事長)

北原 保雄

明けましておめでとうございます。

旧年中は本機構の事業に対し、格別のご協力ご支援を賜り誠にありがとうございました。創設五年目を迎え、決意を新たに諸事業に取り組んで参りますので、本年もよろしく願っています。

本機構は、学生生活支援事業、奨学金貸与事業、留学生支援事業の三つを大きな柱とし、社会のグローバル化や学生の多様化に対応し、次代の社会を担う豊かな人間性を備えた創造的な優れた人材を育成するとともに、国際理解・交流の推進を図ることを目的としております。今年度は、次期中期計画も見据え、各業務の一層の重点化、効率化を図り、効果的に学生支援サービスを提供できるよう、組織を上げて取り組んで参りたいと考えております。

大学等の学生生活支援においては、学生の多様化、複雑化が一段と進む中、きめ細かな対応が求められています。本機構では、学生生活支援活動の直接の担い手である大学等との協力関係のもと、教職員の皆様方を対象とした情報提供事業、研修事業、調査研究事業等を通じて、学生相談、キャリア支援、障害学生修学支援等の一層の充実を図って参ります。

なお、情報提供事業においては、平成一八年六月より「学生支援情報データベース」の公開を開始し、皆様にご活用いただいております。このデータベースでは、大学等における学生生活支援活動をサポートするため、全国の大学等における学生生活支援の取組の情報、学生生活支援に関する調査統計や白書・答申、論文等の多様な情報を一元的に収集・蓄積・発信することを目的としております。昨年は、このデータベースをより効果的に利用していただくために、「ビックアップ」コーナーを設けたり、月刊誌「大学と学生」のバックナンバーを閲覧できるシステムを追加したりするなど、改善に努めて参りました。高等教育機関の教職員の皆様方をはじめとする多くの方々のニーズに応えながら、一層有益な情報をご提供できるよう努力して参りたいと思っております。今後とも、ご協力、ご活用ほど、よろしく願っています。

障害学生の修学支援については、平成一八年度から開始した「障害学生修学支援ネットワーク事業」の拡大、更なる充実を図って参りたいと考えております。また、障害学生修学支援に関する質の高い情報をより多く提供することに努め、大学等の教職員のニーズを踏まえた新たな講習会等を実施するとともに、大学等と連携した調査研究を推進して参りたいと考えておりますので、皆様のご協力をよろしく願っています。

また、本機構では文部科学省からの要請により、文部科学省が実施した平成一九年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に係る審査・評価、公表等に関する業務を担当しましたが、今後も様々な形で大学等の皆様の学生支援の充実等に資するための業務に取り組んで参ります。

奨学金貸与事業においては、意欲と能力のある学生等が自らの意思と責任により大学等で学ぶことができるようという理念のもとで、この事業が多様な学生等のニーズに対応できるよう一層の充実を努めて参ります。また、奨学金の貸与を的確に実施することはもとより、教育施策の観点から奨学生の適格認定を通じて、修学上の指導を大学等の協力連携のもとに厳格に行って参ります。

奨学金の返還については、返還金が次代の学生等の奨学金となる仕組みから、この事業を維持・発展させていく上で大変重要であります。返還金の確実な回収に向けて、連帯保証人や保証人を含めた返還督促の強化や延滞

一年以上の者に対する法的措置等、一層積極的に取り組んで参ります。

留学生支援事業においては、留学情報の提供と、日本留学試験を活用した渡日前入学許可の拡大に努め、アジアゲートウェイ構想等政府の提言を踏まえ、受入れ・派遣の両面での交流を促進して参ります。

また、昨年は、帰国外国人留学生メールマガジンを創刊しました。今後も更に効果的なフォローアップ事業を実施して参ります。

本誌をはじめとして、ホームページなど各種メディアを通じて、様々な学生生活支援に関する情報提供を行うことにより、きめ細かく学生生活支援活動をサポートして参ります。

以上、年頭に当たり学生生活支援業務の課題と取組の概要を中心に申し上げます。

今後とも学生サービスを実施する大学等の皆様方との連携を図りつつ、大学等及び学生のニーズを的確に反映したサービスの提供を目指して参ります。旧来にも増してご協力をいただきましたたく重ねてお願い申し上げます、新年のご挨拶といたします。
